

毎日新聞 朝刊

2005年(平成17年)7月22日(金曜日)

14版

28

◆最も暗い銀河観測

ハワイのすばる望遠鏡を使った赤外線観測で、これまでで最も暗い銀河をとらえることに成功したと、国立天文台と東京大の研究グループが21日発表した。望遠鏡に大気の揺らぎを補正する装置を取り付け、従来の約半分の明るさの24・7等級の銀河を撮影した。8月10日発行の米天文学誌「アストロフィジカルジャーナル」に発表する。

観測したのは、地球から約100億光年離れた領域。他にも24等級台の銀河を45個とらえた。その結果、この領域の銀河

の密度は地球の近くとほぼ同じことが分かった。研究チームの吉井謙・東京大天文学教育センタ―長は「100億光年先の銀河の密度が地球の近くと同じなら、少なくとも100億年前以降は、銀河の衝突・合体が少なかったことを示している」と話している。